

ふるさと東総

平成 20 年 3 月 1 日発行 No.7

東総広域で 取り組んでいる 主な事業

- 東総地区広域市町村圏事務組合管理者あいさつ…… 2
- 東総地区広域市町村圏事務組合の概要…………… 2
- 銚子連絡道路の早期整備促進…………… 3
- ごみ処理広域化推進事業…………… 3
- 中学生海外派遣研修事業…………… 4
- その他の主な事業…………… 4



編集・発行／東総地区広域市町村圏事務組合

〒289-2521 千葉県旭市八の612-1 東総振興センター内

電話：0479-62-3305 FAX：0479-62-3302

はじめに ～東総広域圏の更なる発展に向けて～



この東総地区広域市町村圏が平成の大合併による新体制でスタートして、早いもので2年が経過いたしました。

少子高齢化社会の到来や高度情報化の進展、国民一人ひとりの価値観の多様化等、今後ますます成熟化していく社会においては、我が国の行政構造を中心として、中央集権型社会から住民や地域の視点に立った地方分権型社会への変革が求められています。

このような中、東総広域圏においても、住民の生活圏の広がりにより地域のニーズに応じた住環境整備や福祉・医療施策など広域的な行政サービスの充実に望まれています。

また、個性的で活力ある地域を創るためには、この地域の恵まれた自然環境と、それを基にした観光資源や産業基盤等を活かし、圏域構成市が連携し合うことが重要です。

このような状況を踏まえ、魅力ある東総広域圏の更なる発展には、多種多様な面で行政の効率化の推進を図っていくことが不可欠な要素であると考えています。

これからも地域住民の皆さんと一体となり、人と自然が調和し、安心して暮らせる地域“ふるさと東総”の実現を目指して、広域行政に取り組んで参ります。

東総地区広域市町村圏事務組合管理者（旭市長） 伊藤 忠良

東総地区広域市町村圏事務組合の概要

事務組合の構成

構成団体：銚子市、旭市、匝瑳市

圏域面積：315.60平方km

圏域人口：187,749人

銚子市 面積：83.91平方km
人口：75,020人

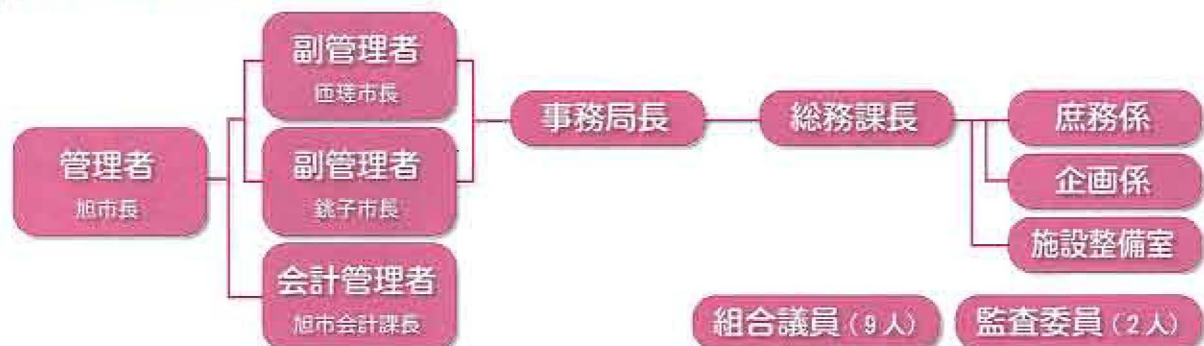
旭市 面積：129.91平方km
人口：70,643人

匝瑳市 面積：101.78平方km
人口：42,086人

【平成17年国勢調査より】



事務組合の組織



情報公開制度・個人情報保護制度の運用状況

平成19年 情報公開制度運用状況

開示請求件数…… 5 件
うち 開示件数 5 件
不開示件数 0 件

平成19年 個人情報保護制度運用状況

開示請求件数…… 0 件

銚子連絡道路の早期整備促進



銚子連絡道路



地区大会

平成19年5月30日、旭市いいおかユートピアセンターにおいて第10回となる銚子連絡道路整備促進地区大会が国・県・沿線市町関係者等大勢の方々の参加のもと開催されました。

そのなかで、5市4町（山武地区2市4町、東総地区3市）の首長・議長で構成される山武・東総地域広域幹線道路網整備促進期成同盟会の会長（旭市長）は大会代表としてあいさつに立ち、「食糧供給の源」・「地域医療及び防災の拠点」としての山武・東総地域の重要性と今後の地域活性化・発展のための基盤施設となるこの道路の早期完成の必要性を訴えました。



要望活動

第10回銚子連絡道路整備促進地区大会での決議を受けて、山武・東総地域広域幹線道路網整備促進期成同盟会は、地元選出議員である林幹雄衆議院議員とともに、平成19年8月2日と11月5日の二度にわたり国土交通省や財務省を訪問し、銚子連絡道路の早期完成へ向けての要望活動を行いました。



11月5日の訪問では、財務省での活動の際に額賀財務大臣に直接会見し、山武・東総地域の発展はもちろんのこと、全線開通によって豊富な農産物、観光資源等、山武・東総地域の優れた資質を首都圏においても機能的に活かすことが可能となる銚子連絡道路の有用性を声高々に訴え、一日も早い完成を目指して要望を行いました。

期成同盟会は、これからも銚子連絡道路の早期完成に向けて、関係機関への要望等に取り組んでいきます。

ごみ処理広域化推進事業

現在、東総地域内で発生したごみは銚子市清掃センター（銚子市）、旭市クリーンセンター（旭市）、松山清掃工場（匝瑳市）の3施設でそれぞれ処理されています。老朽化による施設の更新に当たっては、3市それぞれで焼却施設を建設するよりも、1ヶ所の施設で処理を行った方が様々なメリットがあります。

ごみ処理広域化の メリット

- ・ダイオキシン類の排出削減
- ・リサイクルセンターを充実させ、効率的な再資源化の促進
- ・ごみ焼却エネルギーを利用した売電や温熱供給が可能
- ・施設建設費が国の補助対象
- ・人件費、維持管理費等ごみ処理経費の削減

一般にごみ焼却施設の耐用年数は15年と言われていますが、銚子市の焼却施設は稼動後すでに21年を経過し、同様に旭市が15年、匝瑳市が24年とそれぞれ老朽化が進んでいます。

今から焼却施設を建設するとなると、建設用地決定後、環境影響調査で約3年、建設工事で約3年と、最短でも6年を要するため、ごみ処理の広域化を早急に進めていく必要があります。

東総地域におけるごみ処理の広域化については、旭市遊正地区を建設候補地として住民説明会を開催し、必要性を説明して参りましたが、他地区からのごみを受け入れることへの抵抗や、周辺道路の交通渋滞等、居住環境の悪化を懸念する声が多く出され、理解を得られなかったことから候補地を見直すことといたしました。

しかしながら、ごみ処理施設は私たちの生活になくてはならない施設です。

今後事業を進めるに当たっては、住民の方々に十分な説明を行い、協力していただけるよう努力して参ります。

中学生海外派遣研修事業

平成19年7月24日から28日（4泊5日）の日程で、圏域内中学生31名により『東総地区中学生海外派遣研修（シンガポール）』を実施しました。

研修期間中は、班別自主研修をはじめウィットリー中学校との交流会、現地日系企業への訪問、シンガポールのシンボルであるマーライオンの見学、リパークルーズ等を行いました。



訪問記念品を受け取って



シンガポール都市開発局



シンガポール植物園



リパークルーズ乗場にて

班別自主研修では、事前の研修会で計画した自分たちの行動予定に基づいてシンガポールの街を散策しました。

出かける際には、緊張のせいとか皆一様に落ちつかない表情をしていましたが、行動開始後には事前に学習していた英会話に加え身振り手振りを交えながら、各班ともに協力し合い、楽しみながらそれぞれの目的地を目指しました。

ウィットリー中学校での交流会では、現地の中学校生徒による校内案内と民族舞踊が披露されました。

特に民族舞踊はとても同年代の中学生のものとは思えない出来栄で研修団一同とても感動しました。

私たち研修団からは英語劇「桃太郎」を披露し、その後はお互いの友情の証として日本から持参した記念品を交換したり会話を楽しんだり、短い交流時間のなかではありましたが、友好を深めてきました。



ウィットリー中学校にて

研修では、中国系やイスラム系、インド系等で形成されている多民族国家であるシンガポールで、言語や食事をはじめとする文化・風習、生活観及び宗教観の違いを、お互いが理解・尊重し合い、生活している様子を肌で実感することができました。

この経験が、今後の東総地域の将来を担う中学生たちにとって国際化社会への関心を高めるとともに、日本の文化ひいては地域の文化を再認識することに繋げて欲しいと考えます。

その他の主な事業

職員採用試験事業

構成市、一部事務組合の職員採用試験を合同で実施し、経費の節減・採用候補者の資質の均一化を図ります。

平成19年度

実施日：平成19年9月16日（日）

試験会場：旭市立第二中学校

参加団体：4団体（銚子市、旭市、匝瑳市、
匝瑳市横芝光町消防組合）

試験職種：14職種（一般行政職、保健師職、消防職等）

応募者数：309名

受験者数：277名

職員共同研修事業

構成市職員の公務員として執務に必要な基礎的知識を習得するとともに、指導力及び勤務能率の向上を図ります。

新任職員研修：新規採用職員

中級職員研修：在職期間10年以上の職員

監督者研修：係長又は同等の職にある者

……他